



写真提供:ICAN

宇都宮大学国際学部 主催

核兵器廃絶国際キャンペーン(ICAN)

ノーベル平和賞受賞記念 公開講演会

核兵器禁止条約と市民がつくる平和

—その意義と課題を考える—

講演者:川崎 哲(かわさき あきら)さん

ピースボート共同代表・ICAN 国際運営委員



核兵器禁止条約採択を実現した「画期的な努力」によって、2017年のノーベル平和賞を受賞した核兵器廃絶国際キャンペーン(ICAN)の国際運営委員を務める川崎哲さんをゲストに迎え、核危機が高まる世界における市民の役割について考えます。

日時:2017年12月18日(月)

18:30~20:30 (開場・受付開始は18:00)

場所:宇都宮大学峰キャンパス5号館1階 5B11教室

参加費無料・事前申込不要

先着順200名まで参加可能です

(学生・学内関係者:先着順100名/一般市民:先着順100名)

大学内の駐車場をご利用いただけます

問合せ先:宇都宮大学国際学部総務係 028-649-5164

(平日9時から17時まで)

<核兵器廃絶国際キャンペーン International Campaign to Abolish Nuclear Weapons: ICAN >

各国政府に核兵器禁止条約の交渉開始・支持の働きかけを行うために設立された、全世界的な NGO の連合体。2007年に設立され、2017年現在 101 か国で 468 の提携組織が活動している。核兵器禁止条約が 2017年7月7日に国連総会において採択されたことを受け、2017年のノーベル平和賞を受賞した。

<川崎 哲(かわらき あきら)さん プロフィール>

ピースボート共同代表。核兵器廃絶国際キャンペーン (ICAN) 国際運営委員。2008年から広島・長崎の被爆者と世界を回る「ヒバクシャ地球一周 証言の航海」プロジェクトを実施。2009～10年、日豪両政府主導の「核不拡散・核軍縮に関する国際委員会」で NGO アドバイザーをつとめた。2014年5月、「集団的自衛権問題研究会」をたちあげ、同代表。著書『核拡散』(岩波新書) で日本平和学会第1回平和研究奨励賞を受賞。雑誌『世界』(岩波書店)をはじめ国内外のメディアに寄稿多数。核兵器廃絶のための NGO ネットワーク「アボリション 2000」の活動に 1998年より参加、2016年まで調整委員をつとめた。日本平和学会会員、第22期理事(2016～2017年)。日本軍縮学会会員・編集委員(2011年～)。原子力市民委員会、第2部会(核廃棄物部会)メンバー。

1968年東京生まれ。

1993年東京大学法学部卒業。障害者介助の傍ら、市民グループで平和活動や外国人労働者・ホームレスの人権活動に従事。

1998～2002年、NPO 法人「ピースデポ」スタッフ(00～02年、事務局長)。

2002～2003年、イラク戦争を止めるためのメールマガジン「週刊イラ Q」発行。

2003年、ピースボートのスタッフとなり現在に至る。

2004年～、「武力紛争予防のためのグローバル・パートナーシップ(GPPAC)」東北アジア地域事務局の運営に携わる。

2005年～、「国連改革に関する NGO 連絡会」共同代表として、外務省と NGO の共催による「国連改革に関するパブリックフォーラム」を運営(軍縮部門を担当)。

2006年～、東アジア平和フォーラム(岩波書店、庭野平和財団など後援)に実行委員として関わる。

2008年5月の「9条世界会議」では日本実行委員会事務局長。

同年7月の「北海道洞爺湖サミット」にあたっては、2008年 G8 サミット NGO フォーラムの人権・平和ユニット・リーダー。

2009～2010年、日豪両政府主導の「核不拡散・核軍縮に関する国際委員会」で共同議長に対する NGO アドバイザー。

2012年1月の「脱原発世界会議 2012 YOKOHAMA」で実行委員長代理。

■著書

『核兵器を禁止する』岩波ブックレット 2014

『核拡散 軍縮の風は起こせるか』岩波新書 2003

■編著書

「脱原発世界会議」実行委員会編『原発のない世界のつくりかた』合同出版 2012

「9条世界会議」日本実行委員会編『9条世界会議の記録』大月書店 2008

共著『イマジン 9 想像してごらん、戦争のない世界を。』合同出版 2007

グローバル 9 条キャンペーン『5大陸 20 人が語り尽くす憲法 9 条』かもがわ出版 2007

共編『戦争をしなくてすむ世界をつくる 30 の方法』合同出版 2003